

日本誕生にかかわる古墳前期 4 世紀の祭祀区画と居住区画を持つ大集落が大和葛城で出土
大和葛城 御所市 秋津・中西遺跡の発掘調査現場を訪ねる 2015.8.23.



中西・秋津遺跡：祭祀目的の大集落

初期ヤマト政権直轄が

(2015.8.20. 毎日新聞)

奈良の中西遺跡で溝跡など出土

4世紀最大の建物群が

(2015.8.20. 朝日新聞)

奈良の秋津・中西遺跡で古墳時代の「祭祀集落」を初めて確認

初期ヤマト政権の宗教施設が

(2015. 8. 20. 産経新聞)

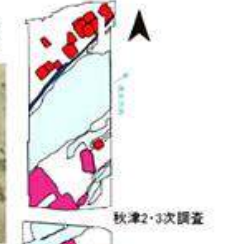


現在京奈和自動車道路の御所南 IC の建設整備が進む隣接する秋津・中西遺跡の発掘調査で「4 世紀祭祀を目的に計画的に建てられた竪穴建物群が見つかった」と 8 月 20 日の朝刊各紙で一斉に報じられた。

この地は縄文時代から続く大集落跡で 葛城川の川岸近く縄文の翡翠そして弥生前期には数千枚の広大な水田が広がっていた。その上に古墳時代前期の塀や柵・溝で囲まれた空間に建つ特殊大型建物跡が見つかり、今回さらにその隣接地から、竪穴建物群が多数出土。古墳時代前期には一つの祭祀を目的とした大集落遺跡(秋津・中西両遺跡は)とみられることが判ってきた。また、北に位置する卑弥呼の時代の纏向遺跡・初期大和政権との関係や南の紀の川から入ってきた渡来系鴨氏そして 5 世紀この地を本拠とした葛城氏との関係など 初期大和政権成立に関係する重要遺跡として注目されている



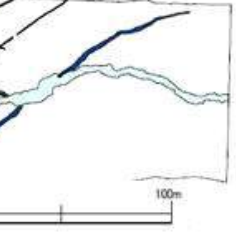
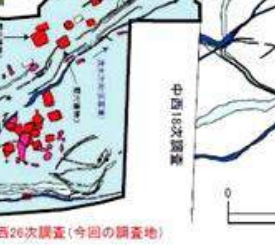
秋津遺跡・中西遺跡における 古墳時代の遺構模式図



集落イメージ



祭祀区画イメージ



新聞報道によれば、

「今回 この奈良県御所市の秋津・中西遺跡で古墳時代（4～5世紀）の竪穴建物跡が26棟分見つかって19日、橿原考古学研究所が発表した。同遺跡では平成22年に、塀で囲まれた空間に建つ大型建物跡が出土し、神社のような祭（さい）祀（し）施設と推定されている。

これまでの出土分と合わせると建物跡は計81棟分にのぼる。26棟の建物跡は南西から北東に延びる流路沿いに方位をそろえて計画的につくられており、全体で南北約400メートル、東西200m以上に及ぶ大規模集落跡とわかった。

祭祀地域と居住地域が幅30cmの溝で区

画されており、橿研は『祭祀集落で、利用方法が異なる土地を明確に分け、計画的に建物が配置されたことがわかる全国初の遺跡』としている。同遺跡の建物跡は、これまでの出土分と合わせて計81棟分にのぼる。

今回見つかった26棟の建物跡はいずれも方形で、大きなものは約6・5メートル四方。井戸跡も見つかった。

橿研は規模の大きさなどから地域の首長ではなく、初期ヤマト政権が営んだ祭祀集落の可能性があるとしている。

発掘現場は京奈和自動車道御所南ICの西側。現地説明会は23日午前10時～午後3時。」と。

新聞報道を見て、この秋津・中西遺跡は京奈和高速道路の御所南ICの建設現場で、その現場全体に広がる広大な弥生前期の水田跡出土にびっくりして、4年前の2011年11月見学に行ったことがある。（中西遺跡）

そして、この水田跡に隣接する秋津遺跡からは 縄文晩期の翡翠や4世紀後半の古墳前期の集落中核を示す方形区画群遺構と特殊な大型建物群（独立棟持柱大型建物）が出土し、この地が縄文時代から古墳時代へと続く大集落跡で初期ヤマト政権と関係する重要遺跡ではないかと注目されていました。

ただ、この当時 発掘された中西遺跡では 弥生前期の水田跡の上層は後世の掘削で破壊されよくわからず、また秋津遺跡の発掘も限られた範囲で相互の関係がよくわからなかった。



【和鉄の道・IronRoad】 国内最大級弥生時代前期の水田跡2千枚が出土?御所市 中西遺跡 2011.11.25.

「大和平野は弥生時代のはやくから 大穀倉地帯だった ???」 高い計画性と技術は大和の国力の源泉

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron16.pdf>

8月23日 久しぶりの快晴 神戸を朝早く出て現地説明会のある秋津・中西遺跡発掘現場へ出かけました。

前回2011年11月に見たあの京奈和高速道路の御所南ICの工事現場全体に広がる弥生前期の数千枚の水田跡はこの葛城周辺が日本誕生の中心地になると思わせる本当に強烈なインパクトでした。今はどうなっているか? 楽しみと近鉄御所駅に降り立ちました。

1. 古墳時代前期 4世紀の祭祀区画と居住区画が計画的に配された大集落 秋津・中西遺跡 概要

中西遺跡・秋津遺跡探訪記の前に、当日現地説明会で貰った資料や学芸員の人から現地で聞いた話をもとにこの遺跡の概要のアウトラインをまとめました。

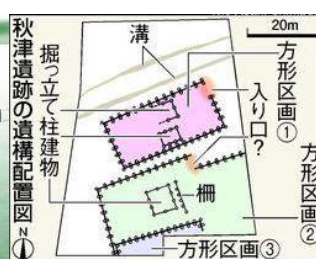
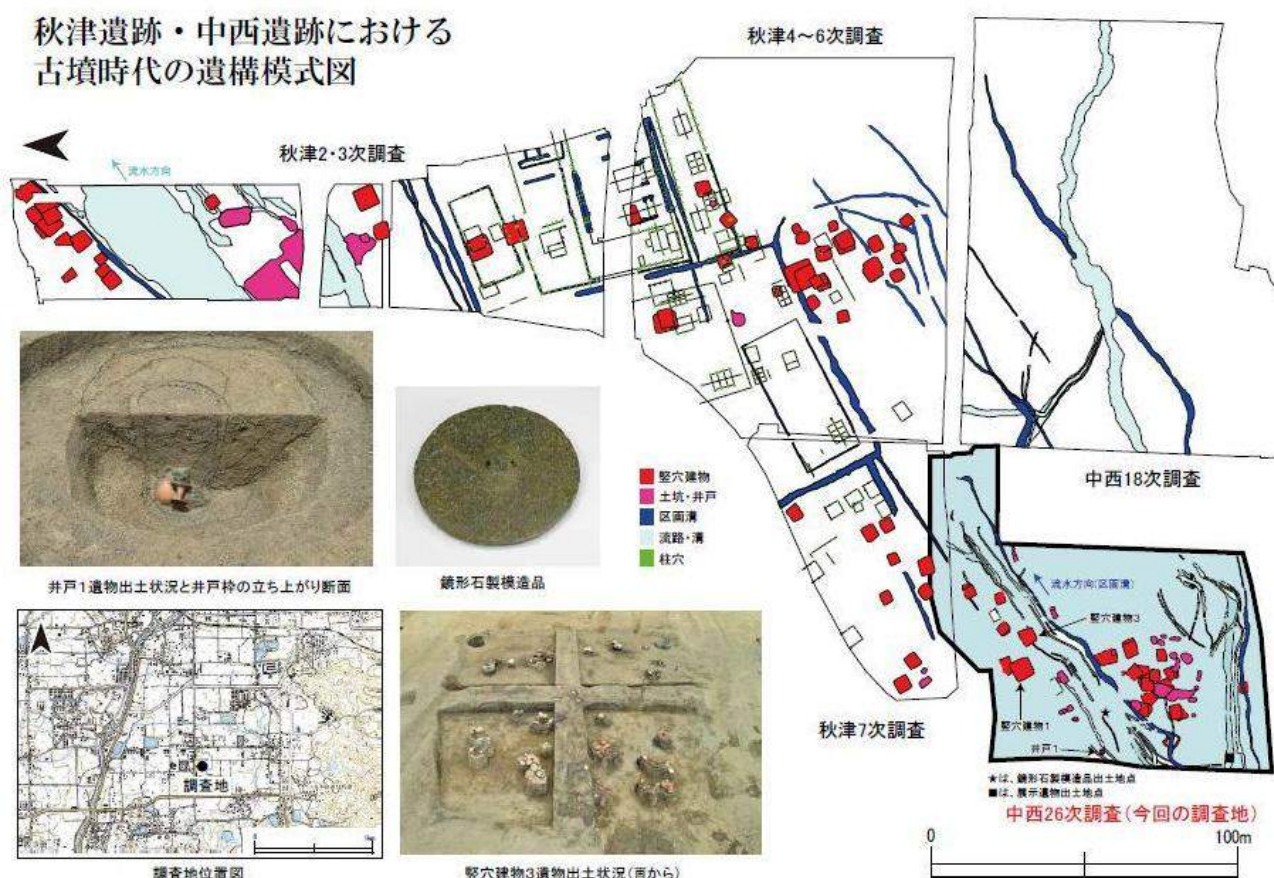


今回この中西遺跡・秋津遺跡に隣接する南西側(京奈和道路が南北に走るその西側)が発掘調査された。

この調査地では秋津遺跡につながる北東側から南東側一帯に流路に沿って、周囲を溝で囲まれて多数の竪穴建物や土坑が出土した古墳時代前期の集落跡(主として居住空間)である。

現発掘調査地の北東奥の秋津遺跡では溝と柵で区切られた方形区画施設と独立棟持柱建物で構成される祭祀空間と竪穴住居・土坑・溝などで構成される居住空間が溝によって計画的に区分されている。

秋津遺跡・中西遺跡における古墳時代の遺構模式図



今回の調査地は秋津遺跡につながる南西側の居住空間で、川の流路に沿って計画的に周囲が溝で囲まれた中に多数の竪穴居住・土坑や井戸が出土し、秋津遺跡と中西遺跡とが祭祀空間と居住空間を持つ古墳時代前期の特別な大集落遺跡であることが明らかになってきた。

また、この古墳時代前期の集落遺跡の下には まだ発掘調査されていないが、東側から続く水田群が眠っているという。
(また、今回調査された南側にもブルーシートに覆われて現在調査中の場所が広がっていました。)



今回の発掘調査で、中西遺跡と秋津遺跡は秋津・中西遺跡と呼ぶべき縄文から古墳前期につながる大集落跡で、東西約150メートル、南北約100メートルの範囲に、現代の伊勢神宮などに見られる「独立棟持柱建物」と呼ばれる建物跡やそれらを板塀で囲んだ「方形区画施設」が出土し、祭殿のような祭祀空間のあった大集落の可能性が高く、纏向遺跡と同じく、祭祀に携わる特別な集落であった可能性が高い。

なお、「この秋津・中西遺跡は祭祀にかかわった大集落」との表現が随所にあるが、この理由は居住区を含めて一般集落のような生活臭いがする遺構・遺物がほとんど出土していないことによる。また、祭祀・祭殿と考えるのか はたまた居館・楼閣と考えるのも柱跡だけでは即断できず、遺跡全体を考察せねばならぬ。このことは纏向遺跡ともよく似ているという。

(2015. 8. 23. 現地説明会で聞いた話)



弥生時代の後期から古墳時代前期にかけて この秋津・中西遺跡と同じような特殊建物を有する祭祀区画をゆうする大集落はほかに大和の纏向遺跡 滋賀の伊勢遺跡 九州吉野ヶ里遺跡などがあり、いずれも日本誕生・初期ヤマト政権とのかかわりなどが検討されている大集落である。

また、この地の直ぐ南西の室集落には葛城 襲津彦の墓の伝説が残る宮山古墳 そしてその先金剛・葛城山麓は葛城氏の本拠地で極楽寺キジ遺跡からは葛城氏の祭殿や葛城氏の生産工房群南郷遺跡群がある。

この4世紀の秋津・中西遺跡の方形区画施設が纏向ヤマト初期政権につながるものか 5世紀の葛城氏につながるものなのかはたまた、古くからこの地に住み着いた鴨氏をはじめ、渡来系氏族につながるものなのかの解析はこれから。でも、この地が 風の森峠水越峠を通過して 西国につながる重要地であり、また 北には纏向・飛鳥を経て 東国ともつながり、縄文時代から続く交易の重要地とみられ、「初期大和王権と関係が深い王城の地」として 役割を担ったに違いない



2. 御所市 秋津・中西遺跡の発掘調査現場を訪ねる 2015.8.23.



8月23日 久しぶりの快晴 神戸を朝早く出て現地説明会のある秋津・中西遺跡発掘現場へ。出発点の近鉄御所駅に午前10時半ごろ降り立つ。初期ヤマト王権と関係した祭祀区画を有する遺構が出土した遺跡の現地説明会。さぞかし混むだろうと思いましたが、特に目立った人影もなし。ちょっと拍子抜けでしたが、改札で駅員さんが遺跡までの地図のコピーをくれました。

場所はここから南東へ約30分ほど歩いた場所。2011年に弥生時代前期の水田群が広がる発掘現場を見に来たことがある京奈和高速道路の御所南ICの開発現場のはず。貰った地図には秋津遺跡と書かれているが、この秋津遺跡に隣接する中西遺跡だ。

実際にはこの二つの遺跡が 特殊大型建物が建つ祭祀区画を持つ一つ

の大集落だということが今回の目玉である。地図から見ると遺跡の場所にはJRの御所駅や玉手駅からもいけるので、遺跡へ



出発点の近鉄御所駅前 2015.8.23.

向かう人は分散したのだろう。

あの広大な御所南 IC 建設現場全体に広がる 2000 枚を超える弥生前期の水田遺構広がりはこの奈良盆地南部一帯が豊穡の地で「王城」になりうる源泉だと感じた強烈な印象がある。

あの水田群はいまはどうなっているだろう・・・それを見るのも楽しみである。

現地説明会のある中西遺跡には何度か通ったことがあるのでよく知った道である。

駅前を南北に走る国道 24 号線を南に少し下って、葛城川にそそぐ柳田川の橋の向こうにある鴨都波神社に立ち寄って、そこから東へ道なりに集落と田園地帯を抜けてゆけば、秋津集落である。

駅前で「一緒にタクシーで行きましょう」と声をかけてもらったのですが、今日は鴨都波神社に立ち寄って、ぶらぶら集落を抜けて歩きたかったので、「ぶらぶら歩きます」と断り、右手に葛城山をちらちら眺めながら駅前の国道 24 号線を南へ歩き出す。国道が坂になったところが、この葛城の地を南の風の森峠から北へ金剛・葛城山の山並みの丘陵地の裾を流れ下ってきた葛城川にすぐ左手東で注ぐ柳田川に架かる橋で、橋の向こう左手にある森が古代豪族鴨氏の氏神鴨都波神社である。

柳田橋に来ると右手に大きな葛城山が堂々とした姿を見せてくれ、橋の向こうに鴨都波神社の森。



駅で貰った現説のある中西遺跡への地図



南の風の森峠を越え、五条・紀の川へ向かう国道 24 号線近鉄御所駅前で



柳田橋周辺から眺める堂々とした葛城山(写真中央)と橋の南鴨都波神社の森(写真右) 2015. 8. 23.



古くから鴨氏が信仰していた鴨都波神社 この一帯は弥生の鴨都波遺跡 2015. 8. 23.

鴨都波神社は鴨氏の氏神 事代主命(事代主)と下照姫命を主祭神とし、建御名方命を配祀する神社で、高鴨神社(高鴨社)・

葛城御歳神社（中鴨社）に対して「下鴨社」とも呼ばれる。

またこの神社一帯は「鴨都波遺跡」という遺跡で、弥生時代の土器や農具が多数出土しており、この葛城の地にやってきた渡来系と言われる鴨族がこの地に住みついて農耕をしていたことがわかる。

鴨都波神社の中を東に抜け、再度川の土手に出て、土手を東へ葛城川の合流点で和歌山線の踏切に出る。一旦踏切を北側に渡り、すぐの豊年橋を渡って、葛城川の対岸へ。そこから再度和歌山線を南へくぐり、真っ直ぐ南へ秋津の集落へ。



鴨都波神社の中を東に抜け、再度川の土手に 2015. 8. 23.

田園地帯を南へ 秋津の集落へ行く古い一本道。 この一本道に入ると数多くの人たちと行違う。やっぱり 今日の現地説明へ出かけた人が多いようだ。左手は蛇穴(さらぎ)の集落の家並。右側東には緑の田園が広がり、田園地帯の向こうに完成した京奈和道路が見えてくる。

「蛇穴」の難地名が示す通り、この一帯は古くから開けた所。



南へ真っ直ぐ秋津集落への一本道に入ると東側一帯に田園が広がり、その向こうに南北にのびる京奈和高速道路。そして中央に神武天皇が国見をしたと伝わる国見山が見える 2015.8.23.

秋津への一本道 東側には広々と田園が広がり、右手奥が秋津・中西遺跡のある秋津集落 2015. 8. 23. 蛇穴集落周辺で蛇穴(さらぎ)とは読めぬ珍しい名前であるが、蛇穴と書いてサラギと読むのは、蛇がトグロを巻き、穴をつくる状態をサラキまたはサカケというからといい、この地には

「 役行者が鴨の神と共に、怪しい女の化身である大蛇を追い払った。大蛇は追付の森から

さらに西南の方へ逃げて行き、市部村の西の大きな穴の中へすくみこんだ。

役行者はこれを野口明神とあがめ、その穴を小石で埋められた 」との伝承が残る。

この蛇穴集落周辺は曾我川・葛城川が流れ下る氾濫地で周辺の集落の水源地でもあり、

竜神信仰・水への信仰が強いところであり、この伝説が残るのかも・・・

また、サラキの音には今来(いまき)の意味があり、上記の話とが混ざって この地名ができたともいう。

蛇穴の集落を抜けると右手に西側の視界が開け、金剛・葛城山が遠望され、その前を西から東の JR 玉手駅の方へ行く県道とクロスする。この道を渡ると秋津集落である。



道の反対側の西には 水越峠を中央に南に金剛北に葛城山が見える 2015.8.23

蛇穴の集落を抜け、JR 玉手駅の方へ行く県道を渡るとまもなく秋津集落にはいるとほぼ集落の中心部 東側に秋津小学校の建物がみえ、多くの人が道を行き来している。学校のすぐ南の道の反対側が今回発掘調査された場所。



秋津集落の中心部とそこにある秋津小学校 2015. 8. 23

東側の家並が途切れた所に出るとぱっと東側に発掘調査地が広がっていて、発掘調査面の中に多くの人が入っていて、その奥を高架と土盛りで南北に抜けてゆく高速道路が見える。

資料によれば下記写真(その1)の右奥 発掘調査地の北東側奥の IC 部分周辺が祭祀区画などが出土した秋津遺跡部分でその手前 今回調査地点である中西遺跡に隣接している。また、2011 年に訪れた弥生時代前期の水田跡発掘調査地点はもう少し奥の高速道が今あるあたり。IC の工事で数多くの重機が走り回割る中、其処ら中一面に白く周囲が縁取られた弥生時代前期の水田跡が並んでいたその痕跡は今は全くない。

(2011 年発掘調査された弥生水田跡の主は現在の高速道路部分とその向こう側ですが、もうきれいに埋め戻されている。)



現地説明会が開かれた今回の発掘調査地点 第 26 次中西遺跡 発掘調査地(その1 南西側)



現地説明会が開かれた今回の発掘調査地点 第 26 次中西遺跡 発掘調査地(その2 南東側部分)



第26次中西遺跡発掘調査(今回の現説)地点の全景 入口を入って南側より 2015.8.23.



道から現発掘調査地の中を眺めると 西北から東南方向に溝状に長くのびた部分が数多く見られるが、この多くはかつての流路と人工的に作られた溝の両方があり、その流路に沿って 数多くの竪穴住居跡や土坑そして井戸も出土していると聞きました。

一番南の発掘調査地の西南角の入口から東へ続く道から発掘調査地にはいる。道の東側が発掘調査面で南側はブルーシートで覆われ、今回公開されていない。



今回発表された中西遺跡 第26次調査地で 26棟の竪穴住居などが出土
古墳時代前期 祭祀を目的とした大集落「秋津・中西遺跡」の居住区の一部

(インターネットより写真採取)



西側の道路の遺跡入口から発掘調査地に入る 2015.8.23.

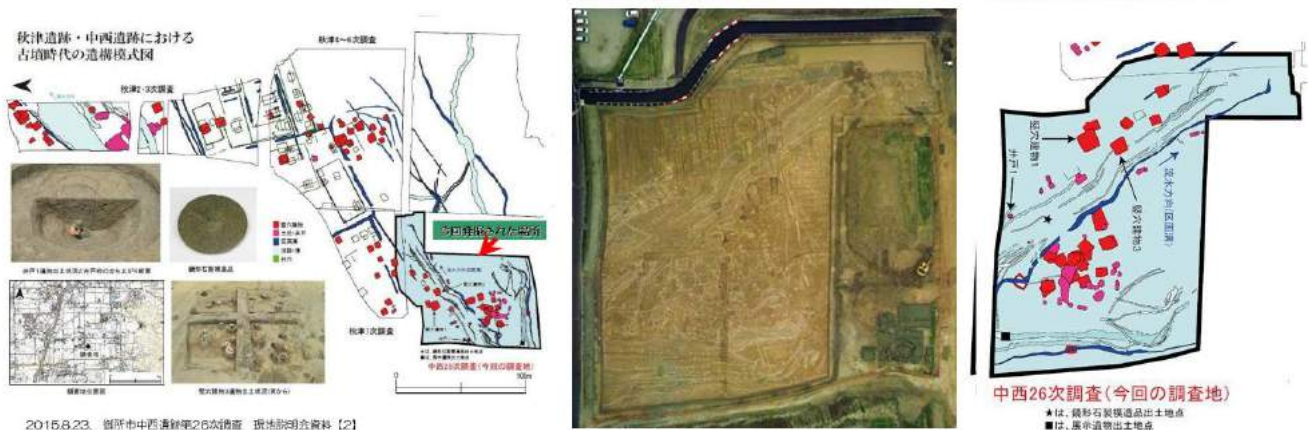
正面奥に東西に走る高速道路が見え 左端が整備中の御所南ICで 橋脚の周辺が祭祀空間と思われる方形区画施設が出土した秋津遺跡周辺。
東へ延びる道の左手が今回発掘された第26次中西遺跡発掘調査(今回の現説)地点で、多くの人が見える。
白く縁取られた長く伸びる3本の溝状遺構が見えるが、手前2本が流路でその向こう1本は溝で、その向こうに竪穴住居や土坑そして溝など今回発掘された集落の遺構が見える。
また、この道の右側一帯は現在発掘中の場所がブルーシートで覆われていました。

入口から今回公開された発掘地点の南端を通して南東隅 東の縁にテントがあり、ここで資料を貰う。
 また、テントには今回発掘された遺物の一部が展示されていた。
 また この北側広場に本遺跡の解説案内板パネルが建てられていて、ここで今回の調査の現地説明が行われた。



発掘調査地の東縁に立てられた遺跡解説案内板並びに発掘遺物展示テント 2015. 8. 23.

今回の調査地点では主として隣接する中西・秋津両遺跡の中西遺跡側で主に竪穴住居跡が出土しているが、今回の現地説明の主は隣接する両遺跡がもともと一つの遺跡であることが判ったこと。
 そして この大集落遺跡が「独立棟持柱建物」と呼ばれる建物跡やそれらを板塀で囲んだ「方形区画施設」を有する祭殿のような祭祀空間のある祭祀に携わる大集落の可能性が高いことが現地説明の主で 現発掘調査地を含めた秋津・中西両遺跡と呼ぶべきこの大集落について解説が行われた。
 その概要パネルの写真を整理して、現場写真の後にまとめて示しました。



秋津・中西遺跡の発掘調査遺構跡と今回の調査地遺構跡の概略図

現地説明資料より

資料によると今回の発掘調査面からは26棟の竪穴住居を主に掘立柱建物・土坑や井戸・溝などの遺構が出土しているが、川の流路と思われる細長い溝が発掘調査面のほぼ中央を南西部から北東部へと走り、その両側に竪穴住居がたちならんでいる。川の両岸に居住区があり、また南端も川で区切られていたようだ。

まず それと遺跡全体を眺めようと見学順路にしたがって、東側の縁から発掘調査面に入り、北側にある見学台に登りに行く。



今回の発掘調査面を南の縁の通路から南側から眺める 中央に見学台が見える 2015. 8. 23.



発掘調査面北側の中央部の見学台から眺めた発掘面北東部 2015. 8. 23.

写真中央を上から下に発掘された溝状の流路があり、その両側に建物遺構や土坑が見える
また、写真 左側奥の高速道路高架橋のあたりが、祭祀区画が出土した秋津遺跡で、
そこにつながる掘立柱建物遺構も竪穴住居群と共に流路の左側手前に見える



発掘調査面のほぼ中央を南西部から北東部へと走る流路(手前)の南側部 2015. 8. 23.



東の縁から北への発掘調査面中央部へ行く見学通路



土坑に破棄された祭祀に使われたと思われる土器片



竪穴住居内の遺物



竖穴住居 3 遺物出土状況 2015. 8. 23.



竖穴住居が川岸に沿って整然と立ち並ぶ居住区の中心部 2015. 8. 23.

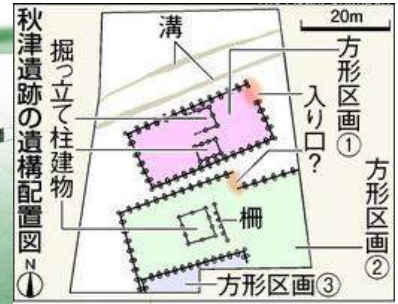
竖穴住居跡は、約3～10メートル四方のもので、今回出土した中西遺跡部分の26棟と秋津遺跡で出土したものを合わせ、2遺跡で計81棟が出土。祭殿に従事していた人々が住んでいた可能性がある。

居住地域では、直径約6センチ、重さ約100グラムの鏡形の石製模造品や高坏 多数の廃棄された土器片など祭祀用の遺物が出土した。

今回 公開されたものはまだ ほんの一部。遺物の整理はこれからだと思うが、一般の暮らしで使われた遺物などはほとんどないのか？ 現地説明では触れられなかった。現場で聞いた学芸員の話では纏向遺跡と同様「生活の匂いのしない遺跡」といい、祭祀のための大集落遺跡と言うのが大方の見方。

また、4世紀 古墳時代前期の遺跡と言うことを踏まえ、「集落の規模や構造から葛城地域の首長では収まらず、初期の大和政権が運営していた祭祀用の集落ではないか」と見られている。興味のあったこの地域で興った豪族 葛城氏は5世紀であり、関係は薄いようだ。

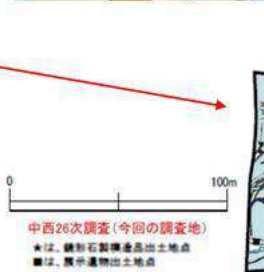
《 中西遺跡・秋津遺跡は 中西・秋津遺跡と呼ぶべき古墳時代前期の祭祀空間のある祭祀に携わる一つの大集落 》
発掘調査地の縁に展示された解説パネル等整理



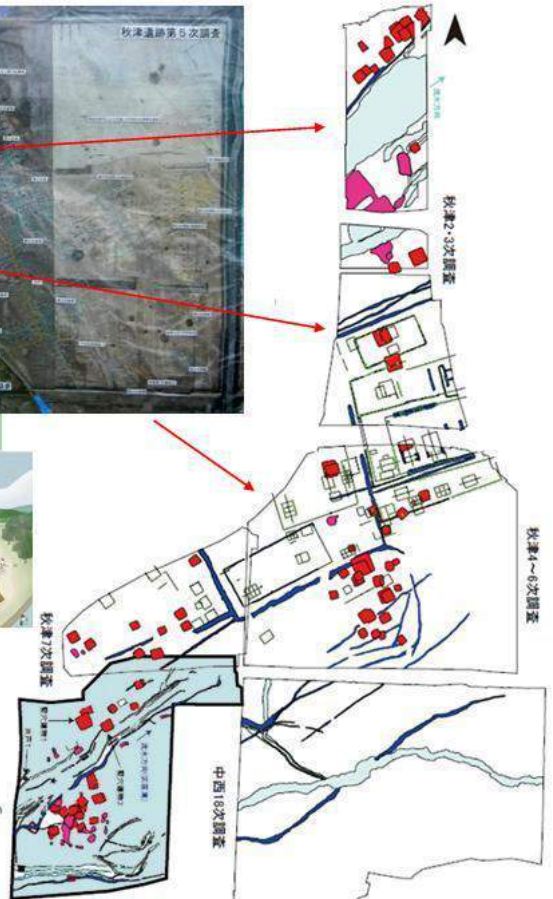
主として祭祀に関係する遺構が広がる北側秋津遺跡



主に居住遺構が広がる南側中西遺跡



中西26次調査(今回の調査地)
★は、鏡類石製埴輪出土地点
■は、灰土遺物出土地点



図面等インターネットより採取整理



発掘地の東隣に沿って建つ案内板でこの遺跡発掘の概要を頭に入れる



緑の田園の中で見た古墳前期の祭祀区画を持つ特別な大集落が 奈良盆地の南端の秋津にあらわれた。
 纏向に匹敵するような祭祀を主とする大集落がこの葛城の地に存在した理由の解析もこれからだろうが、重要な課題。
 日本誕生・初期ヤマト王権にとってのこの地域の重要性が強く浮かび上がってくる。
 この地にたたずめば、南の風の森から紀の川を通過して西国へ 西へは水越・竜田越の峠越えで河内・瀬戸内へ
 東は飛鳥・吉野への道 北へたどれば 纏向・三輪から東国・日本海へ
 まさに時代を先行く交通の結節点。渡来人も数多くこの道をたどり、文物の交流の要の役割が見えてくる。
 そんな重要ポイントであることを示す縄文から続く集落・文物交流の歴史。
 大陸・朝鮮半島との人・文物の交流があった通商路「古代の鉄の道」でもあるこの道に大集落が時代時代姿を変えて現れた。

前回訪れた時強烈な印象を残した弥生前期の大水田跡群はもう緑の田園の中に帰って行ったが、
 今 また 目の前に 纏向遺跡とほぼ同じ、特別の祭祀区画を中心に計画的に作られた大集落がベールを脱ぎ始めた。
 古墳前期 4世紀 日本誕生・初期大和王権につながる重要な大集落であったに違いない。
 また、北の琵琶湖岸 守山市の伊勢遺跡でも 弥生後期から古墳時代前期にかけて このような祭祀の区画を有する大集落遺跡が出土している。これから どんな展開がはじまるのか 楽しみにしている。
 取り囲む緑のベルトの中 久しぶりに夏の心地よさを感じながら、遺跡を後にして、秋津集落の南 室宮山古墳のある集落を
 抜けて、葛城川沿いの国道24号線へ。途中 室の集落で かつて一緒に仕事をした仲間の元気な姿も見ることができました。、
 気分爽快 暑い夏の心地よい風にも出会いたくて 風の森峠から南郷への田園地帯 金剛山麓 walk へむかう。

2015. 8. 23. 秋津から南西の室集落から国道24号線への道をたどりつつ



秋津・中西遺跡周辺から眺める「葛城」の象徴 金剛・葛城山 2015. 8. 23.

【 参 考 資 料 】



1. 御所市 中西遺跡第26次調査 現地説明会資料 2015.8.23.
<http://www.kashikoken.jp/from-site/2015/nakanishi26paper.pdf>
2. インターネット 8月20日新聞各紙朝刊 報道記事



【参考 関連和鉄の道・Iron Road】

1. 国内最大級弥生時代前期の水田跡2千枚が出土?御所市 中西遺跡 2011.11.25.
「大和平野は弥生時代のはやくから 大穀倉地帯だった ???」
高い計画性と技術は大和の国力の源泉
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron16.pdf>
2. 金剛・葛城 山麓 葛城氏の鍛冶工房「忍海」 2005.2.
渡来人が住み鉄鍛冶の技術を伝えた古代「忍海」
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron05.pdf>
3. 古代 大和への道【4】 古代「紀路」紀ノ川の流れに沿って大和へ Country Walk 2007.7.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron15.pdf>
4. 「卑弥呼の邪馬台国」の候補地を訪ねる【1】
東近江 野洲川南の湖岸近く弥生後期の大集落「伊勢遺跡」を訪ねる 2012.11.21.& 2013.2.11.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/13iron04.pdf>
5. 日本初の都市の出現 纏向遺跡を歩く 2012.7.24 & 8.23.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/12iron07.pdf>

2015.9.1. by Mutsu Nakanishi